

News Letter

TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184 <https://www.kokudo.or.jp>Japan Geographic Data Center
公益財団法人
国土地理協会

旧町名の復活～金沢市編～

近年になり、歴史や伝統、地元の人たちが慣れ親しんだ旧町名を復活させる動きが全国で見られます。その中でも石川県金沢市は、全国に先駆けて1999年より旧町名を正式地名として復活させる「旧町名復活事業」を推進しています。今号では、その中からいくつかの町名をご紹介します。

2024年3月16日に北陸新幹線 金沢-敦賀が開業となりました。是非この機会に、金沢市の観光と併せて情緒あふれる旧町名も訪ねてみてはいかがでしょうか。

かすえまち

主計町 (1999年に復活)

全国で初めて復活した旧町名です。この町名の由来は、加賀藩の重臣である「富田主計」の屋敷があったところから名付けられたといわれています。浅野川沿いにある「主計町茶屋街」は、茶屋建築の特徴を残した風情ある建物が立ち並び、重要伝統的建造物群保存地区となっています。

しもしびきまち

下石引町 (2000年に復活)

町名の由来は、金沢城の用石を戸室山から引き出す途中にあったからとされています。現在、この下石引町には金沢医療センターが建っており、かつては加賀藩家老の八家のひとつである奥村家宗家の上屋敷がありました。今でも金沢医療センターの周辺には、屋敷の名残をとどめる長い土塀が残っており、貴重な文化財として管理されています。

とびうめちょう

飛梅町 (2000年に復活)

町名の由来は、加賀八家の一人である前田長種を祖とする下屋敷があり、その家紋に梅が使われていたこと、梅にゆかりが深い太宰府天満宮に「飛梅」という故事があることから名づけられたといわれています。現在その地には、金沢の昔の暮らしを紹介している「金沢くらしの博物館」があります。博物館の建物は、1899年(明治32年)に建てられた「石川県第二中学校」の校舎です。建物の両翼と建物に設けられた3つの尖った屋根から、地元では「三尖塔校舎」と呼ばれ、2017年に国の重要文化財に登録されました。

きくらまち

木倉町 (2003年に復活)

この地に藩用の材木蔵があったことから木倉町となったといわれています。江戸時代、木材の流通や輸送は、経済活動のなかでも最も重要な役割を果たしていました。材木蔵の他にも、古道具屋、白銀細工などの様々な店舗があったようです。今ではグルメ店が多く立ち並び、多くの観光客が訪れています。

ろくまいまち

六枚町 (2004年に復活)

武家奉公人や町人の居住地で、藩政期前半から土地に対する税金である地子銀が6枚であったことから、この町名となったようです。現在、六枚町では「あいさつと笑顔の絶えないまち」などを目標に、町の活性化のために積極的な取り組みを行っています。

なみ きまち
並木町 (2005年に復活)

町名の由来は、藩政時代に浅野川の洪水から守るために植えられた松並木にちなんでいるとされています。明治のころ、この地域は観劇などで大変賑わっており、金沢生まれの作家、泉鏡花ゆかりの「鏡花のみち」など、自然と文化にあふれた町として知られています。

かんのんまち
観音町 (2019年に復活)

令和初の復活地名となります。加賀藩の3代藩主・前田利常の寄進で、安産の観音として信仰されていた「卯辰の観音院」が卯辰山から移された時、拡張された通りの名称として「観音町」と名付けられたようです。

金沢市の中でも特に金石地区は、金沢の海の玄関口であり、江戸時代から北前船の寄港地として栄えてきました。加賀藩の財政を支えるほどの交易があったそうです。今でも旧地名が生活の中で根付き、市民に親しまれていることから、旧町名の復活に力を入れており、2018年から2021年に13旧町名が復活しました。その中から4町名をご紹介します。金石地区には、長年地元で愛されている歴史ある店舗や貴重な文化財が数多く残されています。

かないわとおりまち
金石通町 (2018年に復活)

北前船が盛んだっただころの中心は「本町」で、まち全体の中心的役割を担う町人や商人が多く居住していました。金石通町は「本町」へ通う多くの人々が利用したことから「通町」と付けられたといわれています。歴史は今も受け継がれ、金石地区の教育・行政等の中心を担う地区となっています。

かないわ お ふねまち
金石御船町 (2020年に復活)

江戸時代、殿様が乗る船のこぎ手を務めた足軽が住んでいたところからこの町名がついたそうです。金石地区では民俗芸能が継承されており、ここ金石御船町では金沢市無形民俗文化財の『子ども奴』が貴重な文化として受け継がれています。

かないわまつまえまち
金石松前町 (2020年に復活)

町名の由来は、北前船の交流先である北海道松前地方と関わる商人が多く住んでいたからといわれています。金沢市を含む多くの地域に、「北前船寄港地・船主集落」として、北前船の寄港地や船主集落に関する多くの文化財が残っており、日本遺産に認定されています。金石松前町は、当時栄えた町の歴史が今も映し出されている町といわれ、地元への絆や愛着につながるまちづくりを進めているそうです。

かないわかみえちぜんまち
金石上越前町 (2021年に復活)

江戸時代に、北前船の交易で越前方面と取引をしていた商人が多く住んでいたことから名づけられたとされています。主に水産加工を生業とし、江戸時代より親しまれている「こんか漬け」を製造する店が今も残っており、伝統の味を受け継いでいます。

北陸新幹線の終点駅である敦賀市にある難読地名を調べてみました。皆さん、いくつ読めますか？

- ① 筋生野 ② 瀬河内 ③ 泉 ④ 杉津 ⑤ 田結 ⑥ 長沢 ⑦ 縄間 ⑧ 鞠山

ㄆㄣㄨㄛ⑧ ㄆㄣㄣㄨㄛ⑦ ㄣㄣㄨㄛ⑨ ㄣㄣㄨㄛ⑤ ㄣㄣㄨㄛ⑦ ㄣㄣㄨㄛ⑧ ㄣㄣㄨㄛ② ㄣㄣㄨㄛ①

- (1) 試験日 : 2024 (令和6) 年 11月10日 (日) 予定
- (2) 試験時間/問題数
 地図地理検定 (基礎) : 13:30~14:20・全問択一式、100点満点
 地図地理検定 (専門) : 15:00~16:00・択一式15問、記述式9問、100点満点
- (3) 実施都市 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡
- (4) 受験資格 どなたでも受験できます。年齢等、一切の制限はございません。



地図地理検定

受験料

基本受験のほかにリピーター割引、学生割引、シニア割引等があります。5名以上なら団体受験もできます。

	地図地理検定 (基礎)	地図地理検定 (専門)	基礎・専門の併願
基本受験料	3,000円	4,000円	5,000円
各種割引	2,000円	3,000円	4,000円

詳しくは地図地理検定ホームページ (<https://www.jmc.or.jp/keihatsu-kyouiku/chizuken/>) をご覧ください。

地図地理クイズ!

(第39回地図地理検定より出題)

問 次のア~ウの浮世絵は、歌川広重による「東海道五十三次」の3枚で、東海道のおおよそのルートを描いた地図中のA~Cのいずれかの範囲に含まれる地点を描いたものです。ア~ウとA~Cとの正しい組み合わせを、後の①~⑥のうちから1つ選びなさい。なお、浮世絵に書かれている地名などは隠してあります。



ア 草薙剣がまつられている神社での神事を描いています。

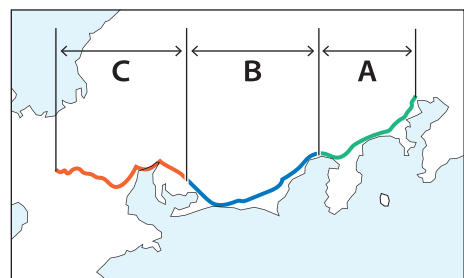


ウ 多くの人夫による川越を描いています。



イ 東海道最大の難所の険しさを描いています。

廣重画「東海道五十三次」1,2.[古吾妻錦繪保存會],[18-].
 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1911032> (参照 2023-05-16) に加筆



	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	A	A	B	B	C	C
イ	B	C	A	C	A	B
ウ	C	B	C	A	B	A

【解説】江戸時代の五街道の一つである東海道は、江戸の日本橋を起点とし、京都の三条大橋までの間に53の宿場があります。アの草薙剣がまつられている神社は、愛知県の熱田神宮です。草薙剣は三種の神器の一つで、三種の神器とは日本神話にもとく天皇の位を示し、ほかに八咫鏡(伊弉神宮)、八咫勾玉(伊弉神宮)があります。つまりCの範囲の地点を描いたものと推測できます。イは、東海道最大の難所である山を険しくリアルに描いているところから箱根と推測できます。ウは東海道で架橋されていないところから大井川や安房川、酒匂川と推測できます(実際には大井川です)。江戸時代には「箱根八里は馬でも越すか、越すに越されぬ大井川」といわれ、難所の一つであったことが想像できます。よってイがAの範囲の地点、ウがBの範囲の地点となり、正解は⑤です。なお、宿場については、アは宮宿(熱田神宮)、イは箱根宿、ウは金谷宿(大井川)です。

日本列島 離島巡り

今回は神奈川県藤沢市、
湘南海岸に浮かぶ陸繋島、
江の島をご紹介します。



「えのしま」には「江の島」「江ノ島」「江島」の表記が見られます。住居表示は「江の島1丁目」「江の島2丁目」が正式です。1966年の住居表示施行以降は「江の島」に統一する方向とされていますが、施行以前から存在する「江ノ島郵便局」など、そのままの施設も見られます。駅名については、江ノ島電鉄「江ノ島駅」、小田急「片瀬江ノ島駅」、1971年開業の湘南モノレールのみ「湘南江の島駅」と表記されます。

江の島は神奈川県の史跡名勝に登録されていますが、その表記は「江ノ島」です。「江島神社」は1047年の「江嶋縁起」に基づき「の」は入りません。



江島神社

江の島に渡るには「江の島大橋」を通ります。これは自動車用で、隣接する歩行者用の橋は「江ノ島弁天橋」と呼ばれ、共に「かながわの橋100選」に選ばれています。1964年の東京オリンピックの際にヨット競技の開催に合わせて整備されました。干潮時には、橋の下の海底が現れ、江の島まで地続きとなる「トンボロ現象」を見ることができます。歩行者用の弁天橋を島に向かって歩いていくと「べんてん丸」乗り場があります。6分ほどの乗船時間で、江の島中央部の坂道を通らずに、島の南側にある江の島岩屋に行けるので便利です。



べんてん丸から見た江の島

江の島では関東ローム層の赤土を観察することができます。ここで見られるのは、約6万年前に活発な活動をしていた箱根山、富士山などの火山から降り注いだ火山灰が、江の島の基盤をつくる葉山層と呼ばれる固い岩石の上に堆積してできたもので、火山灰に含まれる鉄分が長い年月をかけて酸化しているため赤色に見えます。江の島が島として誕生したのもそのころではないかと言われています。



関東ローム層

江の島シーキャンドルは江ノ島電鉄開業100周年事業の際に建設され、2003年4月に開業しました。1951年に日本初の民間灯台として設置された江の島灯台が前身で、現在も単なる展望塔ではなく、民間灯台として航路標識機能も有しています。



江の島シーキャンドル

ニュースレター等に関するお問い合わせは

公益財団法人 国土地理協会 〒102-0094

東京都千代田区紀尾井町3番1号

TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184

URL <https://www.kokudo.or.jp>